

2021年6月28日 聖書朝礼

「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。」
～ ローマの信徒への手紙 12.1～2 ～

全校の皆さん、おはようございます。

先週、卒業生の5人の教育実習が無事に終わりました。教育実習生として母校に戻ってきた先輩たちの姿はいかがでしたか。私は立派に成長した5人の姿を見て嬉しさと誇りを感じました。教育実習の前になぜ先生になりたいかを5人に聞いてみたら、その中の3人が学校時代に先生の姿を見てそう思ったと言っていました。生徒一人一人を大切に接する姿、特に、難しかった時期に寄り添っていただいたと語ってくれた実習生もいました。大切にされた体験はその人の人生の中でとても大きな力になるだろうと改めて感じました。大切にされた体験は、褒められるときも、叱られたときも、それが本当に自分のためだったと、その後でも実感したときに感じる体験だと思えます。教育実習生に限らず、皆さんとマリアの全ての卒業生が、自分たちがどんなに愛されている存在かを忘れず、生きているすべての命を大切にしながら、人生の中で5つの花を咲かせ続ける人になってほしいと思いました。

さて、6月もあと二日を残し、7月には夏休みに入ります。今週のあたりで皆さんは夏休みの計画を立てるでしょうね。皆さんは、遠近透視図法を知っていますね。「透視図法」は最も知られている遠近法で、遠くのものほど小さくなり、地平線上の「消失点」で消えるように描きます。透視図法をひとことでいうと「消失点を決めて、そこへ集まる線を基準に描く」ことで空間の奥行きや遠近感を表現する図法です。さらに簡単に言えば消失点中心に遠いものは小さく描いて、近いものは大きく描くことを言います。それは視覚の事だけでなく、時間感覚の上でも言えるでしょう。現に、皆さんにとって夏休みは大きなものとして感じられていることでしょう。夏休みというのは、目に見えるものとしてあるのではなく、休みのためのまとまった時間としてあるものです。それは手に取ってつかんだり、眺めたり、観察したりすることができるものではなく、実は目には見えない時間であり、時期なのです。ですので、目前の夏休みは圧倒的な迫力で皆さんに迫ってくるように感じられると思います。しかし、夏休みは一日一日の連なりなのです。少し落ち着いて冷静になって、近くて大きく見える夏休みに飲み込まれるのではなく、遠くで小さく見える夏休み後の事、後期の事、進路の事、あるいは自分のこれからの目標や人生についても考えてみるのです。夏休みに利用されるのではなく、利用するのです。皆さん自身が夏休みをあやつるのです。自分なりに日課を決め、計画を立てて、夏休みを有効に利用するというばかりではなく、一日だけでもいいので、自分の将来についてじっくりと考える時をもってすることが必要だということです。大きく見える近いものばかりではなく、小さく映る遠くのものも視野に収めることのできる、豊かな心、広やかな心がいつも皆さんのうちに育まれていきますように祈ります。

